

2026年3月期 決算説明会用資料

2026年5月27日

The logo for RHEON, featuring the word "RHEON" in a stylized, handwritten-style font with a registered trademark symbol.

レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
証券コード（6272）

レオン自動機株式会社 社長の小林でございます。

「2026年3月期の決算説明会」を
始めさせていただきます。

◆ 目 次

- 1. 2026年3月期 連結決算概況**
- 2. 2027年3月期 連結業績予想**
- 3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)**

本日は、ご覧の順番に進めてまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 目 次

- 1. 2026年3月期 連結決算概況**
2. 2027年3月期 連結業績予想
3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)

それでは、「2026年3月期の連結決算概況」について
ご説明いたします。

◆ 連結計算書サマリー

(百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期計画 (2025年11月12日)	2026年3月期 実績	増減額	増減率 (%)	2027年3月期 通期業績予想
売上高	39,214	40,520	42,014	2,799	7.1%	42,900
営業利益	5,298	5,230	5,174	▲124	▲2.3%	5,620
経常利益	5,415	5,320	5,588	172	3.2%	5,690
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,889	3,600	3,898	8	0.2%	4,020
ROE	10.4 %	—	9.5%	▲0.9%	—	9.1%
EPS	144.74 円	133.73 円	144.63円	▲0.11円	—	149.14円
配当	44.00 円	54.00 円	58.00円	14円	—	60円
期中平均為替レート	USドル= 152.58 円 ユーロ= 163.75 円	USドル= 146.00 円 ユーロ= 168.00 円	USドル= 150.77 円 ユーロ= 174.79 円	—	—	USドル= 150.00 円 ユーロ= 175.00 円

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

4

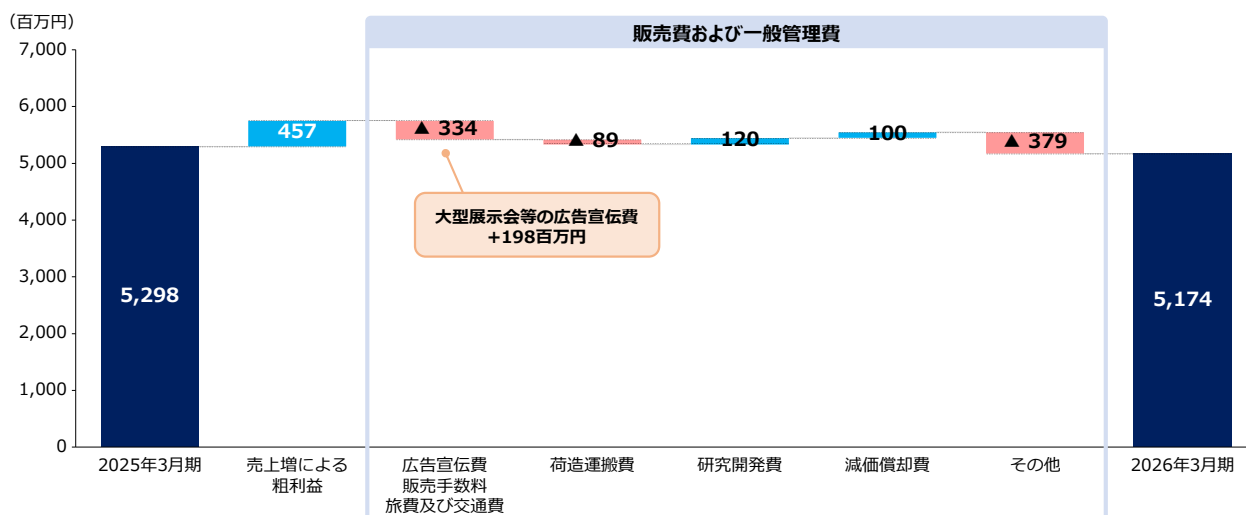
2026年3月期は、

売上高 420億1千万円、
 営業利益 51億7千万円、
 経常利益 55億8千万円、
 当期純利益 38億9千万円 となりました。

前年同期比では、売上高は7.1%の増収、
 営業利益は販管費の増加もあり、2.3%の減益となりました。

◆ 営業利益増減（上期）

- 大型製パンライン等の受注継続により売上が増加し、粗利益が増加。
- 営業利益への為替影響額は1百万円。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

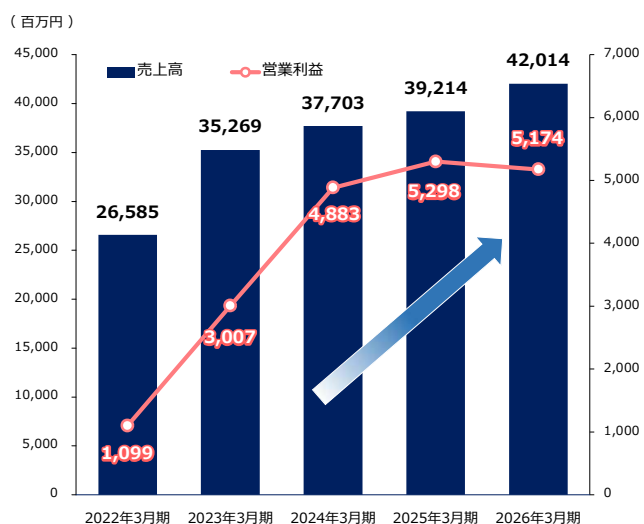
5

このチャートは、営業利益の増減要因を示したものです。

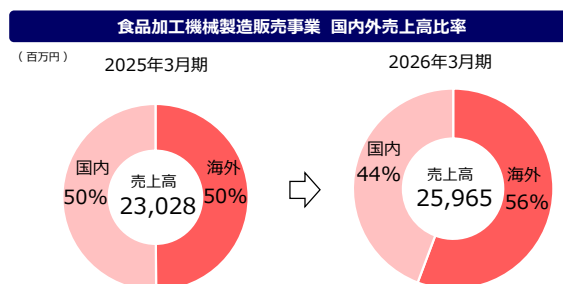
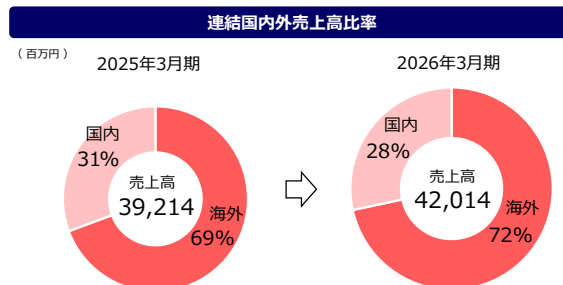
左側の、52億9千万円 が、前期の実績、
右側の、51億7千万円 が、2026年3月期の実績です。

大型製パンライン等の受注が継続し、売上は増加しましたが、
欧米での展示会等の広告宣伝費や
販売手数料が増加したことにより、
1億2千万円の減益となりました。

◆ 過去5年の業績推移



	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
USドル	112.38 円	135.47 円	144.62 円	152.58 円	150.77 円
ユーロ	130.56 円	140.96 円	156.80 円	163.75 円	174.79 円



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

6

過去5年間における業績推移のグラフと
国内外の売上高比率をグラフにしました。

雇用や所得環境の改善が進む一方で、
世界的な人件費高騰や人材確保の難しさが続き、
省人化・自動化の設備投資需要が継続しました。

国内・海外の売上高比率を円グラフにして見ると、
連結ベース全体の海外売上高比率は、上の円グラフの通り、
昨年より3ポイント増加の72%、

「機械事業」は、下の円グラフの通り、
6ポイント増加の56%でした。

これは、欧米およびアジア市場における食品機械の売上が
増加したことが要因です。

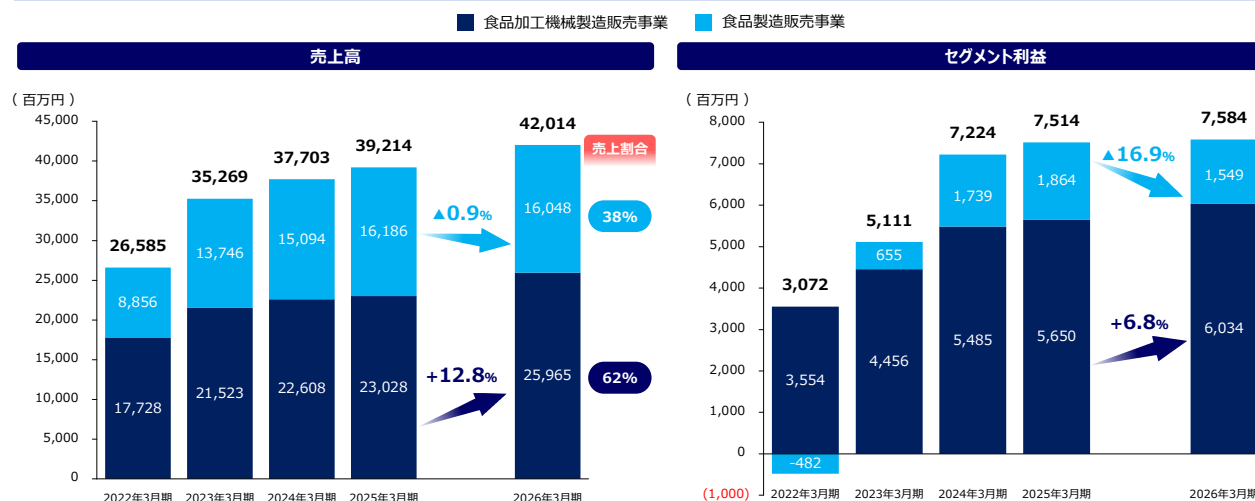
◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

食品加工機械製造販売事業

米国・アジア市場での需要が好調に推移したことにより、売上高、セグメント利益ともに増加。

食品製造販売事業

米国において、終売先の発生と円高影響により売上高、セグメント利益ともに減少。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

7

次に、事業別売上高とセグメント利益です。

「**機械事業**」は、前年同期比で、
売上高が 12.8% 増加し、
セグメント利益も 6.8% 増加となりました。

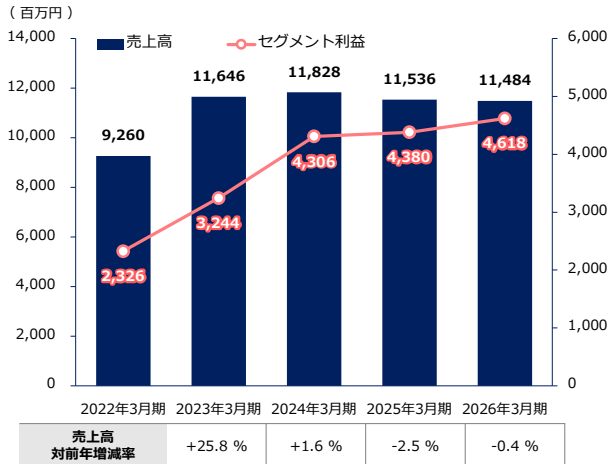
「**食品事業**」においては、
売上高が 0.9% 減少し、
セグメント利益も 16.9% 減少となりました。

特に「**食品事業**」は、オレンジベーカーリーにおいて
一部顧客への販売終了と円高影響により、
売上高、セグメント利益ともに減少しました。

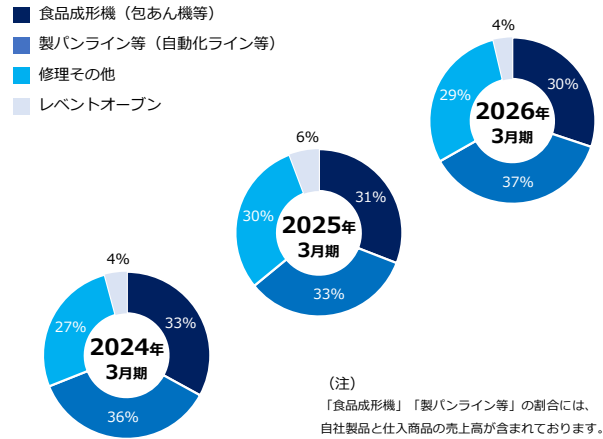
◆ 食品加工機械製造販売事業 日本《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

- 製パンライン等においては、大手製菓・製パンメーカーからの設備更新や新規投資が見られ、売上が増加。
- 食品成形機および修理その他においては売上が減少。

売上高・セグメント利益



売上高内訳



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

8

地域別の状況について、もう少し詳しくご説明いたします。

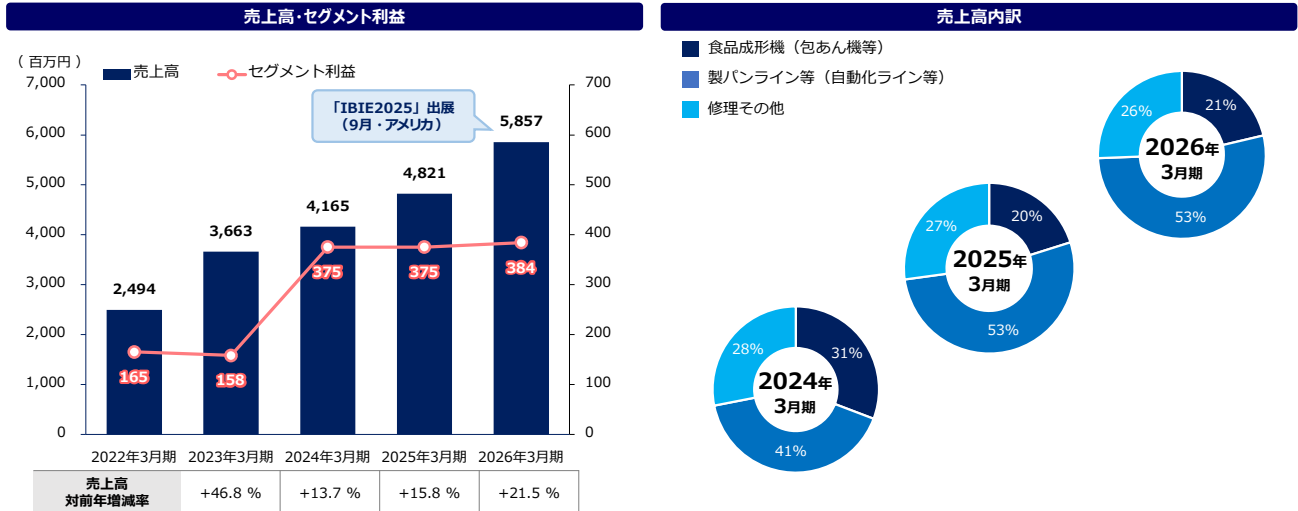
国内市場では、

製パンライン等において、大手製菓・製パンメーカーからの設備更新や新規投資が見られたものの、包あん機などの単体機や修理その他が減少し、売上高は0.4%減少しました。

なお、セグメント利益は5.4%増加しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッド、コンチャ生産ラインの販売が好調を維持し売上が増加。
- 食品成形機および修理その他の売上も増加。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

9

アメリカ市場では、
売上高は、現地通貨ベースで22.9%、
円ベースで21.5%、ともに増加しました。

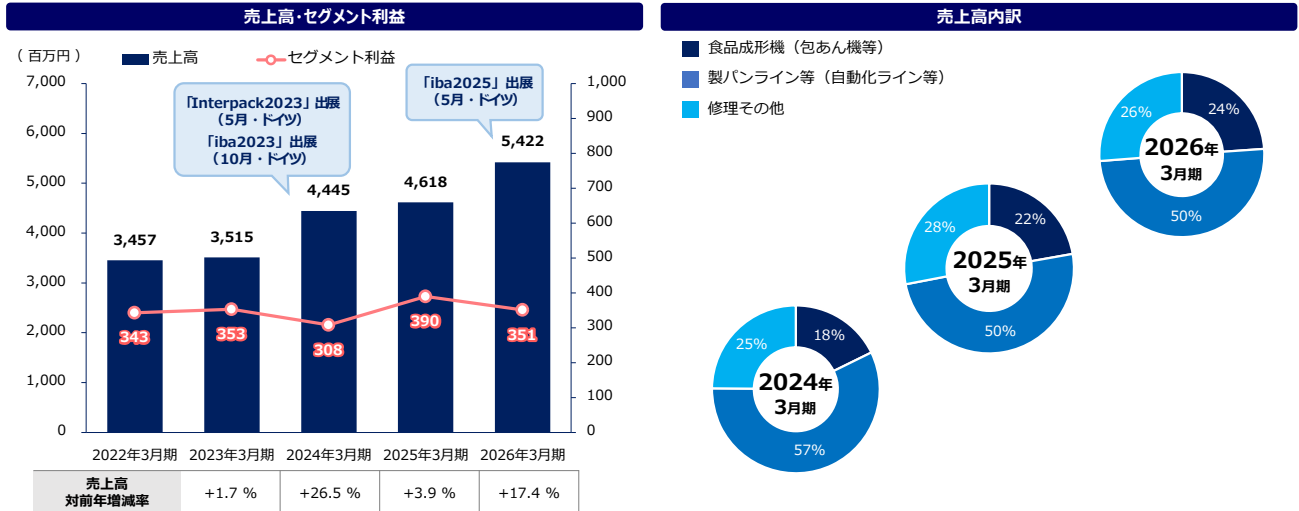
依然として、移民政策による労働者不足や物価上昇により、
生産の合理化需要が継続しております。

製パンラインにおいては、昨年から引き続き、
アルチザンブレッドの本物志向が高まっているほか、
コンチャ生産ラインやドーナツ生産ラインの販売も好調でした。

食品成形機、修理その他の売上も増加し、
セグメント利益は、2.5%増加しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ 《過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳》

- 製パンライン等は主力製品である小型製パン機や、大型ラインの販売が好調で売上が増加。
- 食品成形機および修理その他の売上也増加。
- 為替円安の影響も追い風となった。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

10

ヨーロッパ市場では、

売上高は、現地通貨ベースで前年同期比10%増加し、円ベースでは17.4%増加しました。

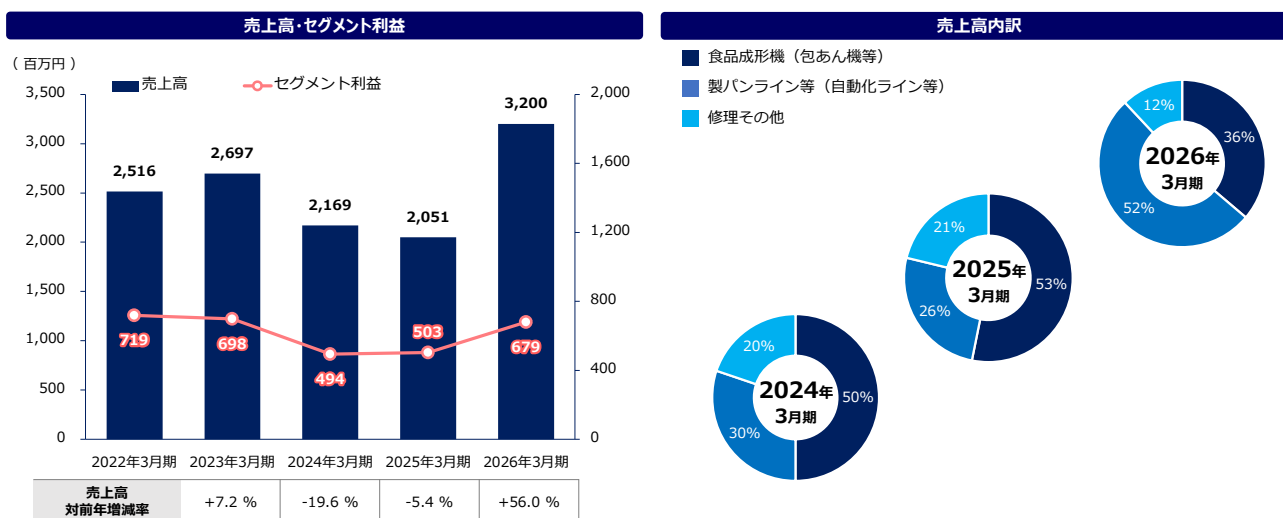
主な要因は、継続的な営業活動が実を結び、大型ラインの売上が増加したことです。

また、主力製品である小型製パン機の販売は依然として堅調な需要があり、包あん機などの食品成形機も、菓子や調理製品、健康食品など幅広い市場に向けた販売が進み、売上高は増加しました。

なお、セグメント利益は、広告宣伝費の増加により10%減少しました。

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去5年 売上高・セグメント利益/売上高内訳 》

- 製パンライン等は、中国や台湾、韓国および東南アジアで販売が順調に推移し、売上が増加。
- 食品成形機の販売は増加したものの、修理その他の売上は減少した。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

11

アジア市場について説明いたします。

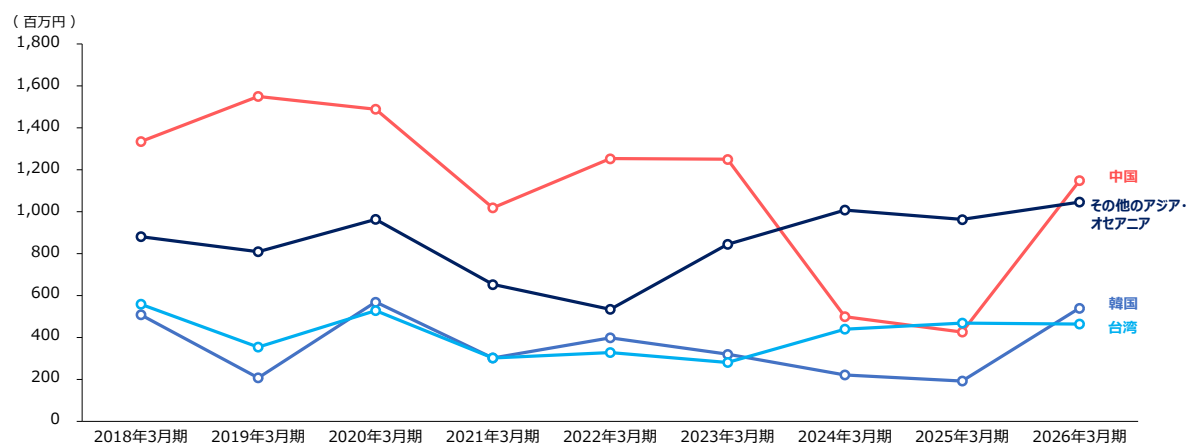
製パンライン等、食品成形機ともに販売が好調に推移し、売上高は56%増加しました。

主な要因は、中国や台湾、韓国での大型ラインの販売が大幅に増加したことなどが挙げられます。

食品成形機は、東南アジアやオセアニア地区など幅広い地域での販売があり、売上高が増加しました。

セグメント利益は、アジア地域全体の好調さから、35%増加しました。

◆ アジア国別 売上高推移



中国 (香港含む)	1,335	1,550	1,489	1,018	1,253	1,250	499	426	1,148
韓国	509	208	569	303	399	320	221	192	540
台湾	559	354	528	302	329	281	440	469	465
その他 アジア・オセアニア	881	809	964	653	534	844	1,008	963	1,046

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

12

地域別に見ますと、

上位3カ国となる中国・韓国・台湾の売上は
アジア全体における売上高の約67%を占めており、
同地域を牽引する主要な市場となっております。

その他の地域も着実な広がりを見せております。

東南アジア地区では

タイ、インドネシア、フィリピン、インドなど幅広い国々で
設備の新規導入や更新が行われ、売上が増加しました。

オセアニア地区もアルチザンブレッド市場向けに小型製パン機の
販売が順調に推移しております。

成長市場として、アジア全体の底上げに寄与しております。

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

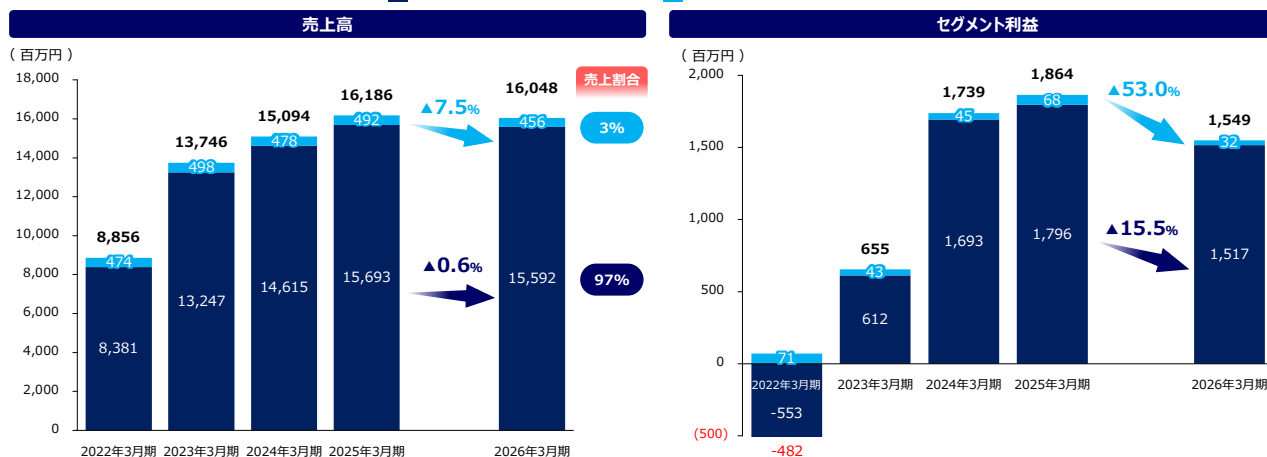
売上高

- 北米・南米 新規顧客獲得により現地通貨ベースでは売上が増加したが、円ベースでは若干減少。大口顧客向けの販売が減少したことにより、売上が減少。
- 日本

セグメント利益

- 北米・南米 新規顧客向けの売り上げ増加に伴い、顧客獲得費が上昇し利益が減少。
- 日本 売上原価率の上昇により利益水準が大幅に低下。

■ 北米・南米（オレンジベーカリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

13

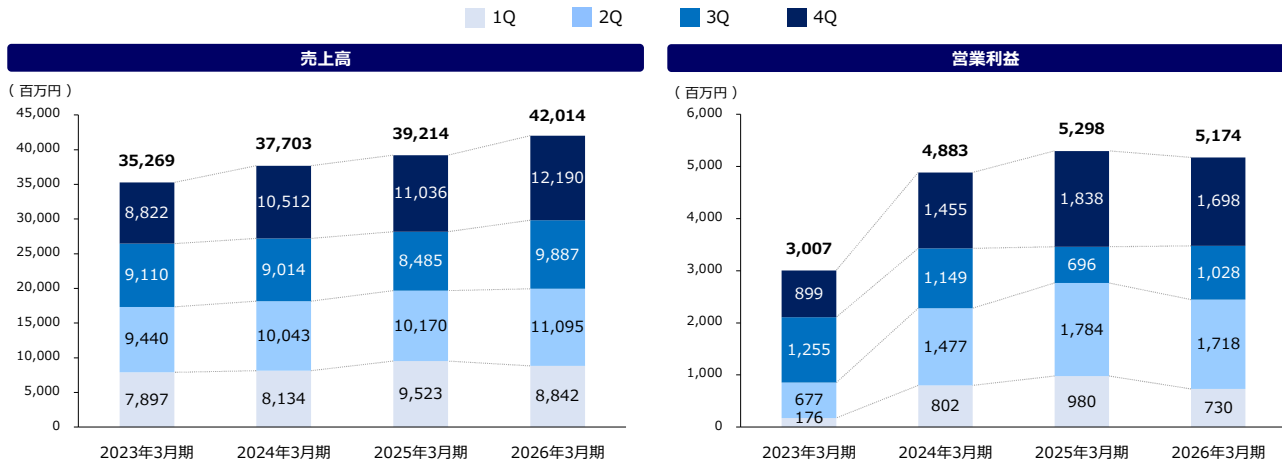
次に「**食品事業**」の状況です。

アメリカのオレンジベーカリーは、
終売先の影響をカバーすべく、新規顧客の獲得に力を入れました。
その結果、
現地通貨ベースの売上高は前期を上回りましたが、
販促活動の強化に伴うコスト増加の影響から、
セグメント利益は15.5%減少しました。

国内のホシノ天然酵母パン種につきましては、
大口顧客向けの販売減少や売上原価率の上昇により、
売上高、セグメント利益ともに減少しました。

◆ 四半期毎の売上高・営業利益推移

- 4Q（1月～3月）売上高は欧米・アジアの機械販売好調とオレンジベーカーリーの回復により、前年同期比10.4%増加。
- 営業利益は製パンライン等の販売増加とオレンジベーカーリーの新規顧客獲得費増加により前年同期比7.6%減少。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

14

四半期ごとの売上高、営業利益の推移を説明いたします。

左側のグラフは売上高を示します。

第4四半期の売上高は、アメリカ、ヨーロッパ、アジアにおける機械販売が好調で、前年同期比で10.4%増加しました。

右側のグラフは、営業利益を示します。

製パンライン等の販売増加と新規顧客獲得費の増加により、前年同期比で7.6%減少しました。

◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2025年3月期		2026年3月期				主な増減要因
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	
資産合計	49,242	100 %	54,405	100 %	5,162	10.5 %	● 建設仮勘定の増加
流動資産	29,073	59.0 %	25,654	47.2 %	▲3,419	▲11.8 %	● 現金及び預金の減少
固定資産	20,168	41.0 %	28,750	52.8 %	8,581	42.6 %	● 建設仮勘定の増加 ● 投資有価証券の増加 など
負債合計	10,527	21.4 %	11,342	20.8 %	815	7.7 %	● 短期借入金の増加
流動負債	8,867	18.0 %	9,620	17.7 %	753	8.5 %	● 短期借入金の増加 ● 前受金の増加 など
固定負債	1,660	3.4 %	1,722	3.2 %	61	3.7 %	—
純資産合計	38,715	78.6 %	43,062	79.2 %	4,347	11.2 %	● 利益剰余金の増加
負債純資産合計	49,242	100 %	54,405	100 %	5,162	10.5 %	—

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

15

貸借対照表サマリーについて、主なポイントをご説明いたします。

流動資産は、

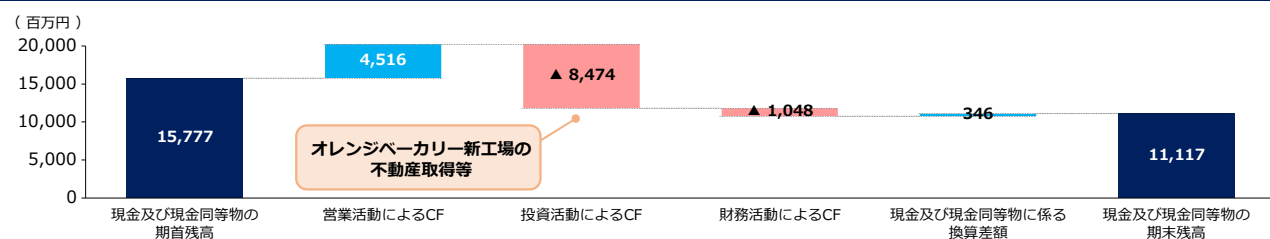
オレンジベーカーリー新工場建設に伴う投資額が増加したことにより
現金及び預金が減少しました。

固定資産は、建設仮勘定および投資有価証券が増加しました。

流動負債は、短期借入金および前受金が増加しました。

純資産は利益剰余金等の増加により、
対前年比で11.2%の増加となりました。

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー



(百万円)	2025年3月期	2026年3月期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	13,591	15,777	-
営業活動によるCF	5,754	4,516	<ul style="list-style-type: none"> ● 税金等調整前当期純利益 5,588 ● 減価償却費 1,502 ● 仕入債務の減少 ▲132
投資活動によるCF	▲1,999	▲8,474	<ul style="list-style-type: none"> ● 有形固定資産の取得 ▲7,989 ● 無形固定資産の取得 ▲478
財務活動によるCF	▲1,369	▲1,048	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期借入金の増加 500 ● 長期借入金の返済 ▲298 ● 配当金の支払額 ▲1,343
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲199	346	-
現金及び現金同等物の増減額	2,186	▲4,660	-
現金及び現金同等物の期末残高	15,777	11,117	-

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

16

キャッシュ・フロー・サマリーです。

現金及び現金同等物の期首残高は

157億7千万円でしたが、

期末残高は、

アメリカ オレンジベリー新工場の不動産取得等により、

111億1千万円となりました。

◆ 目 次

1. 2026年3月期 連結決算概況
- 2. 2027年3月期 連結業績予想**
3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)

次に、「2027年3月期 通期連結業績予想」について
ご説明いたします。

◆ 2027年3月期 連結業績予想

- インフレや地政学リスクの高まりに加え、米国の対外政策の影響や金利、為替の動向などから、依然として先行き不透明感が強い。

(百万円)	2026年3月期実績	2027年3月期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	42,014	42,900	885	2.1 %
売上原価	23,763	23,800	36	0.2 %
販管費	13,076	13,480	403	3.1 %
営業利益	5,174	5,620	445	8.6 %
経常利益	5,588	5,690	101	1.8 %
親会社株主に帰属する当期純利益	3,898	4,020	121	3.1 %
期中平均為替レート	USD=150.77円 ユーロ=174.79円	-	-	-
想定為替レート	-	USD=150.00円 ユーロ=175.00円	-	-

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

18

2027年3月期の通期計画は、

売上高 429億円、
 営業利益 56億2千万円、
 経常利益 56億9千万円、
 当期純利益 40億2千万円 と

増収増益の予想としております。

食品業界を取り巻く環境は、

インバウンド観光客の増加や設備投資の需要回復が見られるものの、
 原材料およびエネルギー価格の高騰や人件費の上昇など、
 依然として不透明感が強く、引き続き予断を許さない状況です。

なお、想定為替レートは

ドルが150円、ユーロが175円としております。

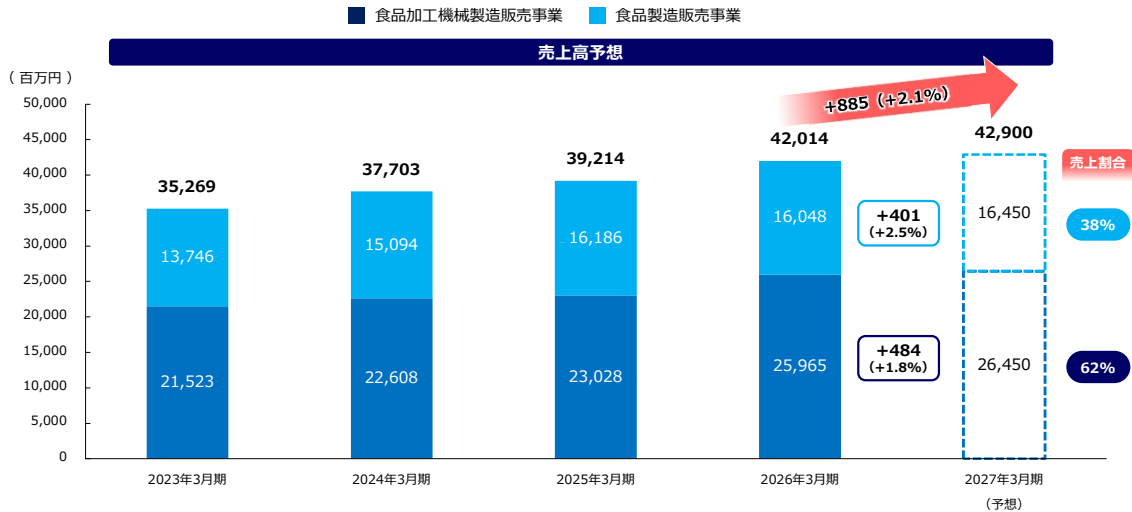
◆ 業績予想 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《事業別売上高》

食品加工機械製造販売事業

人件費高騰に対応した自動化の設備投資需要継続により、売上高が増加すると予想。

食品製造販売事業

米国の人手不足を背景としたホイロ後冷凍パン需要の増加により、売上高が増加すると予想。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

19

事業別の通期の見通しとして、

「**機械事業**」は、

人件費高騰に対応した自動化の設備投資の需要継続が見込まれ、
売上高は前年同期比 1.8%の増加を予想しております。

「**食品事業**」ですが、

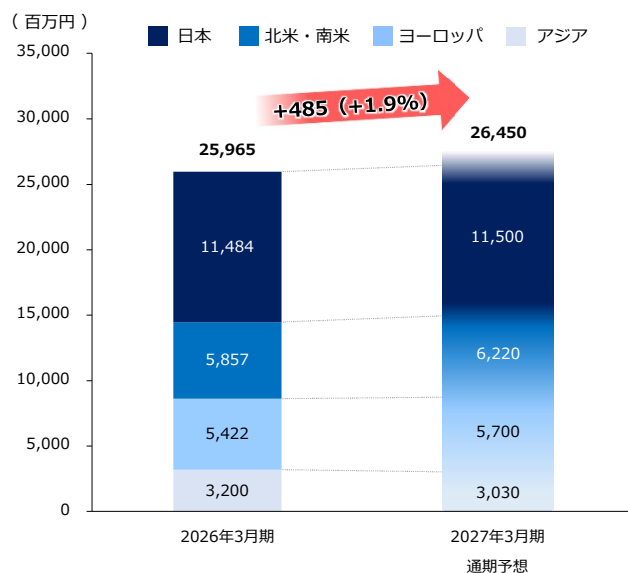
アメリカ市場では人手不足を背景とした

「ホイロ後冷凍パン」需要の増加により、

売上高は 前年同期比で増加すると予想しております。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> アルチザンブレッド生産ラインなど大型の製パンライン等の好調な受注が継続 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 主力の小型製パン機であるツインデバイターの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

RHEON

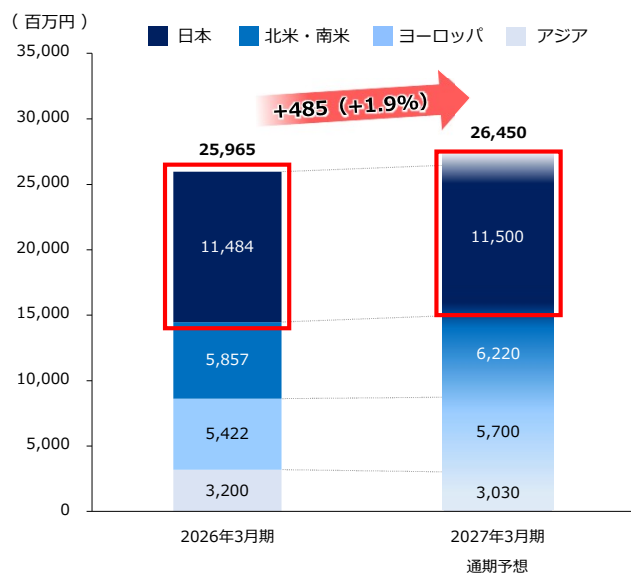
© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

20

「**機械事業**」の地域別の見通しについてご説明いたします。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本

- 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想
- 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想
- 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む

北米・南米

- アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続
- 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ
- 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化

ヨーロッパ

- 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化
- 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想
- アフリカでの営業展開を引き続き強化

アジア

- 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想
- 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む
- インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す
- オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

21

国内市場では、

大手顧客を中心に製菓・製パン設備の合理化投資が進んでおり、更新需要などは引き続き堅調に推移する見通しです。

食品成形機に関しては、

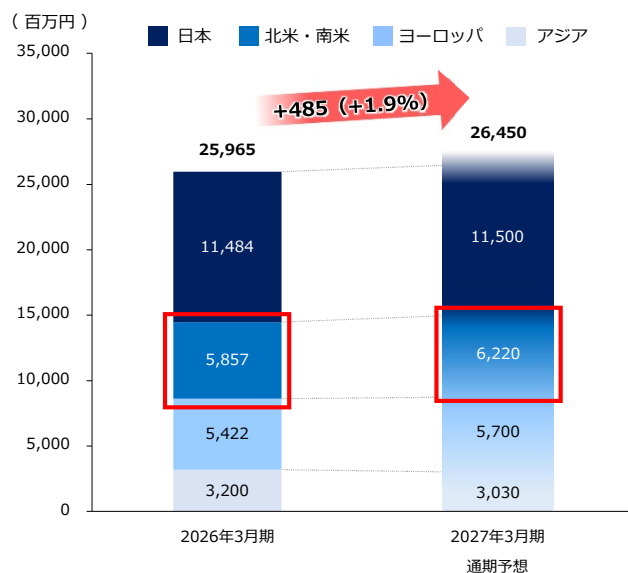
補助金を活用した案件の獲得を継続して進め、

市場全体としては、

前期と同水準を維持するものと予想しております。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> アルチザンブレッド生産ラインなど大型の製パンライン等の好調な受注が継続 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

22

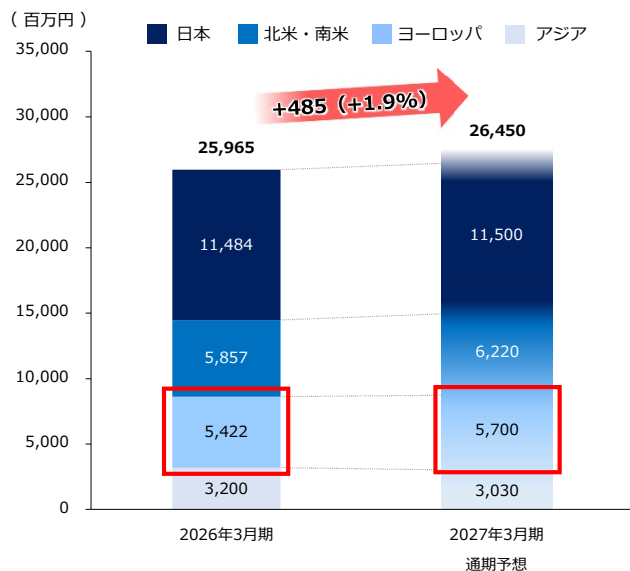
アメリカ市場では、

アルチザンブレッド生産ラインをはじめとする
大型製パンライン等の受注が、
好調に推移しております。

対外政策の動向には注視が必要ですが、
現時点で当社の売上および
利益に与える影響は限定的と判断しており、
今期もさらなる増収を見込んでおります。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調でありドイツ以外の地域での販売を強化 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

23

ヨーロッパ市場では、

引き続き円安の影響も追い風となり、

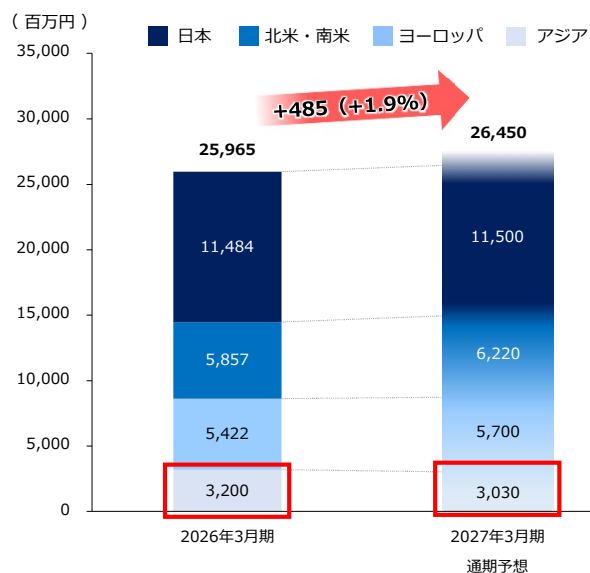
円ベースでの売上高は増加する見込みです。

小型製パン機、食品成形機ともに底堅い需要が継続しており、

また、大型製パンライン等の受注残が多いことが主な要因です。

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予測



日本	<ul style="list-style-type: none"> 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 食品成形機は引き続き「中小企業省力化投資補助金」を活用した案件が増加すると予想 国内全体においては、前期と同等の売上を見込む
北米・南米	<ul style="list-style-type: none"> アルチザンブレッド生産ラインなど、大型の製パンライン等の好調な受注が継続 展示会 (IBIE) での見込客へアプローチ 包あん機は、周辺機器とのセット販売を強化
ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> 主力の小型製パン機であるツインデバイターの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売を強化 食品成形機は欧州全域において需要が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移すると予想 アフリカでの営業展開を引き続き強化
アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国は大型案件の受注が前期比で減少するものと予想 台湾、東南アジア地区で堅調な設備更新需要を見込む インドマーケットでは、製パン市場拡大のため現地研究会を積極的に実施し販売増加を目指す オセアニア地区においては、アルチザンブレッド向け小型製パン機の販売増加を目指す

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

24

アジア市場では、

台湾、東南アジア地域からの設備更新需要は、
前期に続き堅調に推移すると見込んでおります。

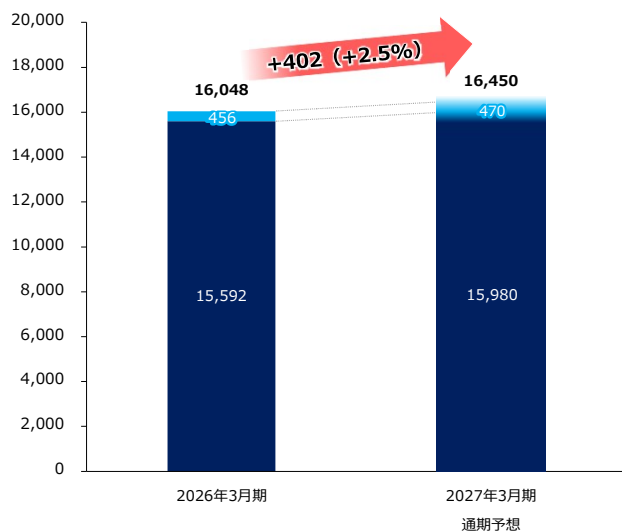
一方、中国への大型ラインの受注については、
前期比で減少する見込みで、

アジア全体の売上高は減少すると予想しております。

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

売上高予測

(百万円) ■ 北米・南米 (オレンジベーカリー) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種)



北米・南米 (オレンジベーカリー)

- ホイロ後冷凍製品の商品ラインアップを増やし、市場を拡大する
- 新規先への新商品提案営業を強化し通期での売上増加を図る

日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- 各種展示会への出展、大口顧客への接触強化により拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

25

次に、「**食品事業**」の見通しです。

アメリカのオレンジベーカリーでは、

「ホイロ後冷凍パン」の商品ラインアップを増やし、
市場ニーズを捉えた商品展開を進めてまいります。

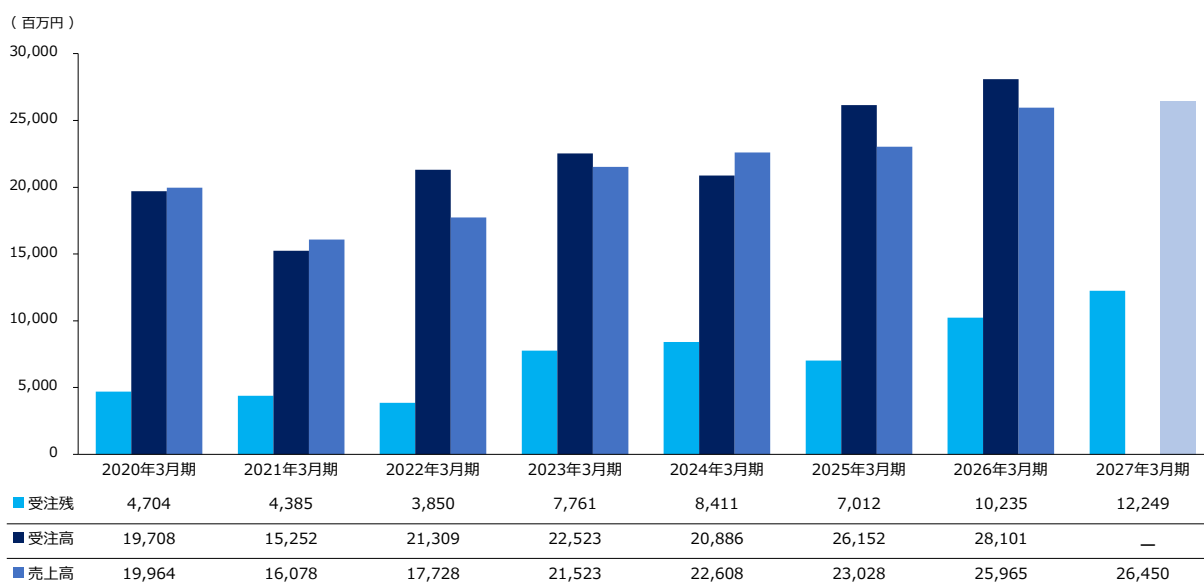
主要顧客である大型スーパーマーケットや
レストラン向け商品の需要は

今後も堅調に推移すると見込まれることから、
売上高は増収を予想しております。

国内のホシノ天然酵母パン種につきましては、

見込み客への個別提案会や製品講習会などを積極的に実施し、
売上増加を図ってまいります。

◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移



※受注残は4月1日時点



© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

26

「機械事業」の

受注残・受注高・売上高の数値をグラフにしました。

2026年3月期の売上高は過去5年で最高となりました。

2027年3月期の受注残高も堅調であり、

今後も受注活動を進めてまいります。

◆ 〈参考〉 中東情勢の悪化によって想定される影響と対応

- 中東情勢の影響は、不確定要素が多いことから、先々の見通しは不透明。
- 今後の業績への具体的な影響については、判明した段階で速やかに開示。

想定される主な内容	想定される影響	対応の方向性
販売の制約	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点では安定した受注が取れている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売面では、引き続き受注を確保していく
原材料等の調達難	<ul style="list-style-type: none"> ● 原油由来資材の一部が品不足になっている状況 ● 樹脂部品や原油関連商品の調達難 例) 塗装用シンナー、切削油、樹脂材料など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先と連携し、部材確保に尽力する ● 代替資材の調達の検討
仕入れ価格の上昇	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕入れ部品（市販品、樹脂加工品等）の品薄に伴う値上げの要請 ● 収益性の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ● コストアップを吸収するための価格転嫁
原油高に伴うエネルギー価格高騰	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸送運賃の高騰 ● 海外での配送遅延、停滞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸送効率のアップ ● 効率的な配送体制の検討

ここで、中東情勢の悪化によって想定される影響について、表にまとめましたので、ご説明いたします。

足元の受注環境は堅調であり、直ちに業績に影響が出る状況ではございませんが、中東情勢の影響については、先行きの見通せない状況が続くものと考えられることから、今期の業績見通しには織り込んでおりません。

当社の機械生産に必要な原油由来資材に関しては、すでに一部材料について供給制約や値上げ等の話が来ております。また、船便の確保や荷造運搬費の上昇による収益性の低下といったリスクにも注視してまいります。

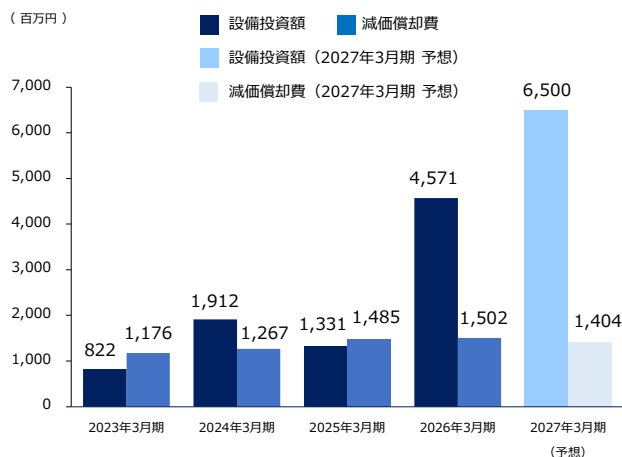
現在、生産計画に影響が出ないよう、調達先確保に努めておりますが、今後、想定を上回る資材不足や、コスト上昇など、事業環境が大きく変化した場合には、経営計画の柔軟な見直しを含め、適切に対応してまいります。

◆ 設備投資額・減価償却費・研究開発費

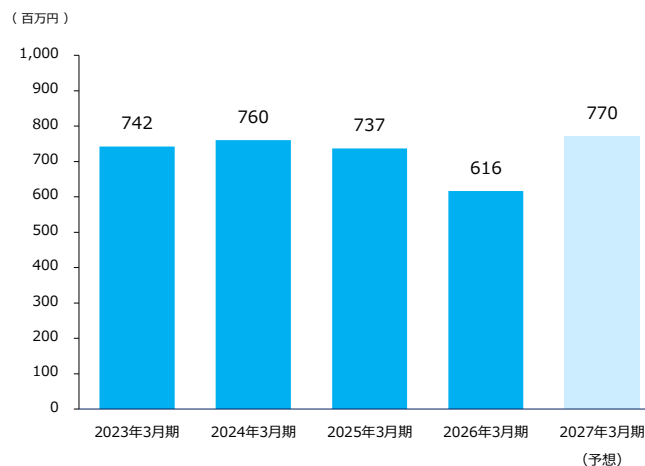
2026年3月期 オレンジベーカーリー新工場の物件取得、上河内工場の自動倉庫（オートストア）設備の導入などを実施。

2027年3月期 設備投資の主なものは、オレンジベーカーリー新工場建設、上河内工場向けパレット自動倉庫など。

設備投資額・減価償却費



研究開発費



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

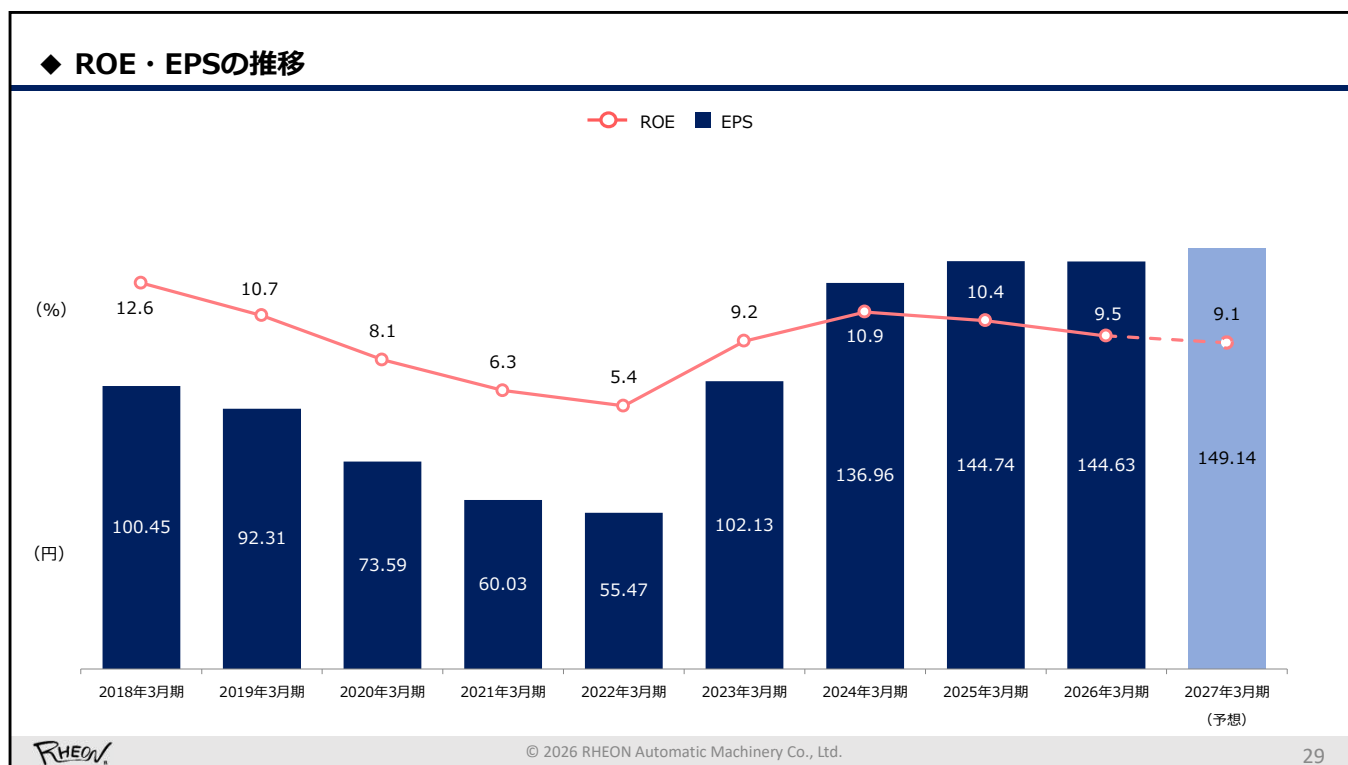
28

2026年3月期の設備投資の主なものは、オレンジベーカーリー新工場の物件取得、上河内工場におけるオートストア設備などでありました。

当初見込み額は60億円でしたが、オレンジベーカーリー新工場建設の遅れによる期ずれにより、45億円の実績となりました。

2027年3月期は、オレンジベーカーリー新工場の設備投資を中心に、上河内工場のパレット自動倉庫など、グループ全体で65億円を見込んでおります。

また、減価償却費は、14億円、研究開発費につきましては、7億7千万円を見込んでおります。



ROE および EPS の推移を示したグラフです。

ROEは、

2026年3月期が、9.5% に対して

2027年3月期は、9.1% を予想しております。

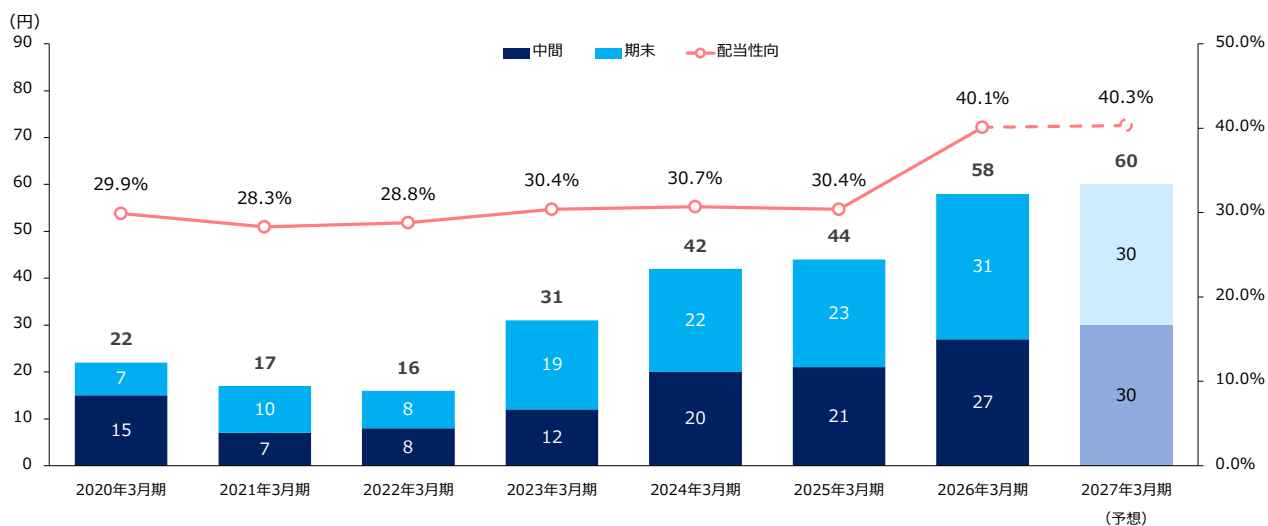
EPSも、

2026年3月期が、144円63銭 に対して

2027年3月期は、149円14銭 を予想しております。

◆ 配当方針

- 今中期経営計画期間中（2026年3月期から2028年3月期）の連結配当性向の目標を**40%以上**とし、業績等を総合的に勘案し安定的な「**累進配当**」を行うことを基本方針とする。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

30

次に配当方針ですが、

当 中期経営計画期間中の連結配当性向目標を40%以上とし、安定配当を維持するために「累進配当」をおこなってまいります。

2026年3月期は、前期より14円増配となる58円といたしました。

2027年3月期の通期配当は60円を予定しております。

◆ 目次

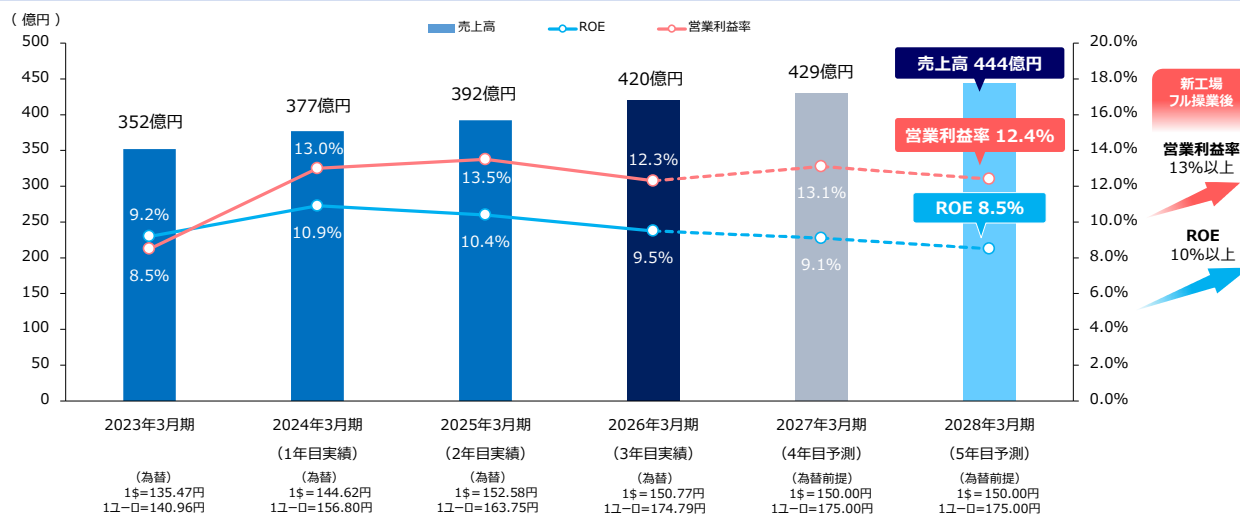
1. 2026年3月期 連結決算概況
2. 2027年3月期 連結業績予想
- 3. 中期経営計画 進捗状況
(2023-2027年度)**

引き続き、
中期経営計画の進捗状況をご説明いたします。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 基本方針と基本戦略 -

テーマ：改革と企業基盤の強化

目まぐるしい市場環境の中、「成長基盤」「利益基盤」「経営基盤」の3つの基盤強化に取り組み、『働きに喜びを感じる社会・会社』に向けて社会課題の解決と企業成長を図るための足場固めとする。



RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

32

5か年中期経営計画の3年目の実績は、先ほど説明しました通り円安による影響もあり、

「売上高420億円」「営業利益率12.3%」

「ROE9.5%」となりました。

4年目は、引き続きアメリカ、ヨーロッパ市場の好調さを想定して

「売上高429億円」「営業利益率13.1%」

「ROE9.1%」を予想しております。

なお、今回、今年度の想定為替レートをもとに、

5か年中期経営計画の目標値を変更いたしました。

売上高は444億円といたしました。

オレンジベーカーリー新工場計画を織り込んで、

営業利益率は12.4%、ROEは8.5%に修正いたしました。

工場の操業開始年を遅らせたことから、

次期 中期経営計画期間中にこれまでの目標値を達成すべく進めてまいります。

詳細につきましては、明らかになり次第公表いたします。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 資本収益・資本コスト・株価を見据えた現状分析 -

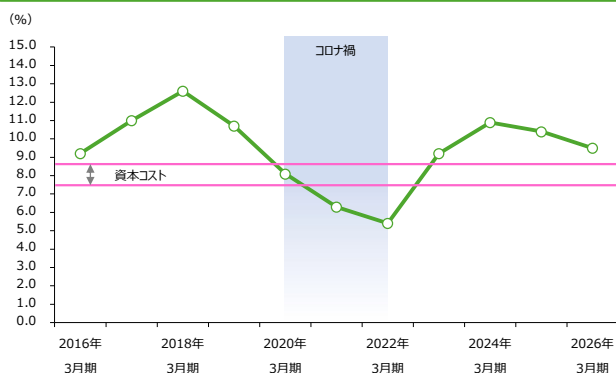
- ROEは、コロナ禍から脱し経済が回復することで日米欧の食品加工機械製造販売事業や米国の食品製造販売事業が好調を維持し、資本コストを上回る状況である。
- PBRを1倍超に戻すためには、現状以上の企業価値向上や、株主還元の強化により、「ROE向上」と「資本コスト低減」を実施していく。

資本コスト	7.5～8.5%（CAPMで計算）
ROEの過去5年平均	9.1%（直近：9.5%）
PBRの過去5年平均	1.01倍（直近：0.91倍）

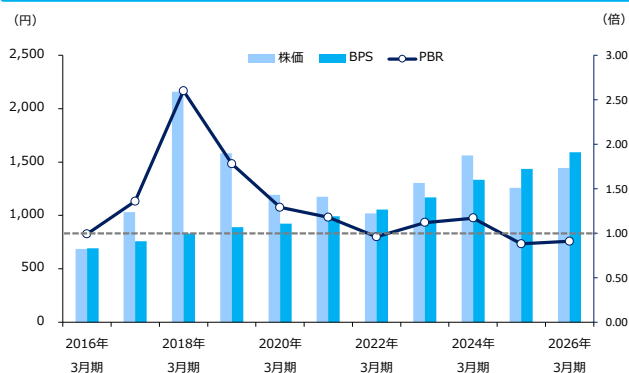


対話を通じて非財務情報の重要性を高め、資本コストの低減を図る
2027年度のROEは新工場建設により8.5%に低下する見込み
収益力向上や成長投資による事業拡大を進め株主価値を高める

ROEの推移



PBRの推移



RHEON

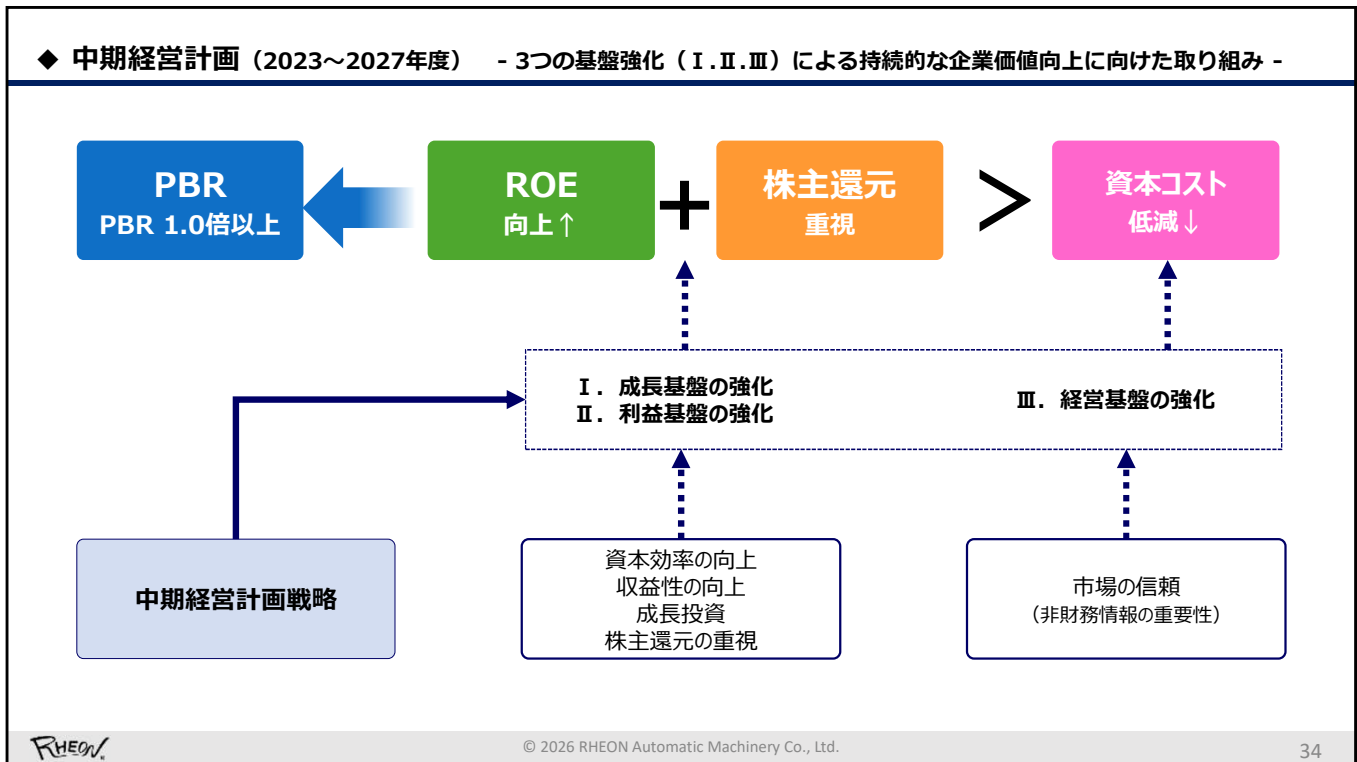
© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

33

ここで、「資本収益」や「資本コスト」および「株価」を見据えた状況をご説明いたします。

当社の資本コストの範囲は、7.5%～8.5%としております。
コロナ禍でROEが資本コストを下回ることがありましたが、
過去10年間に於いて、概ね資本コストを上回る状況であります。

PBRにおいては、1倍割れの状況が続いておりますが、
収益力向上や事業拡大に向けた積極的な成長投資の検討を行い、
また、株主還元の強化に取り組み、
PBR 1倍越えとなるよう進めてまいります。



具体的には、現状以上の企業価値向上を目指すために、中長期的な目線で「ROE向上」と「資本コスト低減」を推進することが必要と考えております。

その為に、中期経営計画の戦略である

「成長基盤」や「利益基盤」の強化を進めることで

「ROEの向上」を図り、

「経営基盤」の強化を進めることで、

「資本コストの低減」を図ってまいります。

足元PBRが1倍割れとなっていることから、

成長戦略に加えて、

株主様との対話を重視し、IR活動を強化してまいります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - I.成長基盤の強化：取り巻いている経営環境を事業機会として捉える -

食品加工機械製造販売事業：新機種開発、海外市場の拡大、国内の新たな市場の進出

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● ペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を推進 ● 中国市場に新型KN700火星人を、ヨーロッパ市場に食肉用新型包あん機を投入し、市場拡大 ● インド・中東・アフリカの市場開拓 ● 国内の新規大手顧客（菓子卸・大手小売、調理冷凍食品等）へのアプローチを継続
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 2026年3月期を継続しペストリーラインの完成とスマートファクトリーに向けた開発を継続 ● 海外市場向け主力機種KN551火星人後継機の開発 ● 引き続き、インド・中東の市場拡大、アフリカ市場の開拓 ● 国内の大手顧客（製菓・冷凍食品・総合食品）との接点強化、大手製パンメーカー向け設備更新の提案継続

食品製造販売事業：オレンジベーカーリーの拡大と開発技術の情報提供

2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートラインやクロワッサンバンダー開発のテストデータ提供 ● オレンジベーカーリー新工場の検討
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 引き続きスマートラインやクロワッサンバンダーおよび高速ストレッチャー開発のテストデータ提供 ● オレンジベーカーリー新工場の生産設備導入と稼働準備



「成長基盤の強化」では、
「機械事業」において、欧米に続く新たな販路として、
インド・中東・アフリカ市場の開拓を進めてまいります。
また「新型ペストリーライン」や「スマートファクトリー」の完成に向けた
研究開発を、今年度も継続してまいります。

「食品事業」では、米国の子会社である
オレンジベーカーリー新工場の生産設備導入と
2027年4月の稼働に向けた準備を進めてまいります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - II.利益基盤の強化：収益に左右されない利益基盤の構築 -

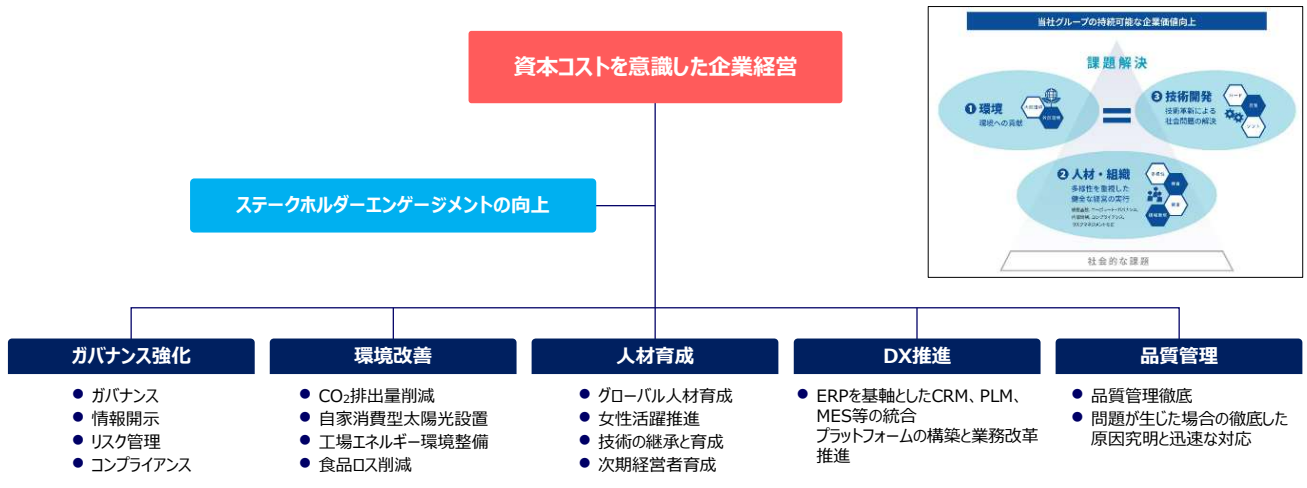
開発によるコスト削減	
2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計の標準化 → 販売実績のある製菓・製パンラインの標準化 ● 電気系統の標準化 → 標準配線図、タッチパネル標準化、予防保全プログラム
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計の標準化 → 2026年3月期を継続し販売実績のある製菓・製パンラインの標準化 ● 設計負荷の見える可 → 受注～設計着手までの最短スケジュールを見える化し、納期短縮を図る
生産性向上	
2026年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● システム：MESシステムにおける実際原価可視化の稼働 ● 受注負荷状況の全社見える化 ● 生産設備投資 工作：DNCラインの更新、組立現場にAGVの導入 物流：自動倉庫（オートストア）の導入・稼働
2027年3月期	<ul style="list-style-type: none"> ● システム：ADISIGHTシステムにおける実際原価の正確性・透明性向上 ● 生産現場で活用するヒューマノイドロボットの研究 ● 生産設備投資 工作：組立現場に搬送用ロボット（AGV）の追加導入 物流：パレット自動倉庫の導入・稼働

「利益基盤の強化」では、2026年3月期から継続し、設計の標準化と設計負荷の見える化を進め、納期短縮を図ります。

生産性向上としましては、パレット自動倉庫など生産設備投資、また、ADISIGHT（アジサイト）システムを活用し原価の正確性と透明性を向上させ、収益力の底上げを図ります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - Ⅲ.経営基盤の強化：健全経営を確立していく -

- ステークホルダーとの対話を通して、当社の「サステナビリティの3つの重点課題（環境、人材・組織、技術）解決」と「5つの経営基盤の強化」が、社会課題を解決する責務と健全経営の確立に必要と考えています。



※ ERP（企業資産計画）、CRM（顧客管理）、PLM（製品ライフサイクル管理）、MES（製造管理）

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

37

資本コストを意識した企業経営をおこなうためには、
ステークホルダーとの対話を通して、
当社の「サステナビリティの3つの重点課題解決」と
「5つの経営基盤の強化」が、
社会課題を解決する責務と健全経営の確立に必要と
考えております。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - Ⅲ.経営基盤の強化：環境改善・人材育成 -

温室効果ガス（CO₂排出量）削減

2026年3月期	● 2014年対比、82%削減（2030年80%削減目標） （東京営業所を除く全事業所を非化石燃料に切り替え） ※Scope1、2
2027年3月期	● 2014年対比、83%削減予定 ※Scope1、2

エネルギーマネジメント（消費電力削減）

2026年3月期	● 上河内工場（第4工場）にて照明LED化および省エネタイプ空調機更新 ● 営業所に自家消費型太陽光発電設備設置の検討
2027年3月期	● 照明LED化：上河内工場（第1～第4工場）継続、および札幌営業所 ● 引き続き、営業所に自家消費型太陽光発電設備設置の検討 ● 自家消費型太陽光発電設備用蓄電装置の導入検討

人材育成

2026年3月期	● グローバル人材育成の継続：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（9名） ● 社員教育：外部講師による講習やeラーニングによる育成支援
2027年3月期	● グローバル人材育成の継続：入社2年目の社員を中心に海外子会社での長期研修（16名） ● 社員教育：若手社員の成長やキャリア形成をサポートするメンター制度の活用

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

38

「環境と人材」に関して表にまとめました。

「環境」に関しては、国内の2014年度を基準として
2030年度までにスコープ1・2の
温室効果ガス80%削減を掲げております。

2026年3月期は82%削減をし、
今年度は83%削減の目標を達成する予定であります。
今後は、スコープ3へ範囲を広げるべく検討をまいります。

また、「人材」に関しては、グローバル人材の育成および
社員一人ひとりの能力向上のための研修を実施してまいります。

◆ 中期経営計画（2023～2027年度） - 投資戦略 -

研究開発投資	設備投資	環境投資
2026年3月期 実績	2026年3月期 実績	2026年3月期 実績
6億1千万円	45億4千万円	3千万円
	<ul style="list-style-type: none"> ● オレンジベーカリー新工場（土地） ● 自動倉庫（オートストア）設備（上河内工場） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上河内工場（第4工場）にてLEDおよび省エネタイプ空調機更新
2027年3月期 予想	2027年3月期 予想	2027年3月期 予想
7億7千万円	64億円	1億円
	<ul style="list-style-type: none"> ● オレンジベーカリー新工場（建物、設備） ● パレット自動倉庫（上河内工場） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上河内工場（第2工場）にて省エネタイプ空調機更新および第1～第4工場LED化 ● 営業所に自家消費型太陽光発電設置の検討

RHEON

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

39

投資戦略に関しまして、2026年3月期は、

「**機械事業**」においては主に生産体制の強化を図りました。

また、「**食品事業**」では

オレンジベーカリー新工場の土地、建物の取得をおこないました。

その結果、「研究開発投資」に6億1千万円、

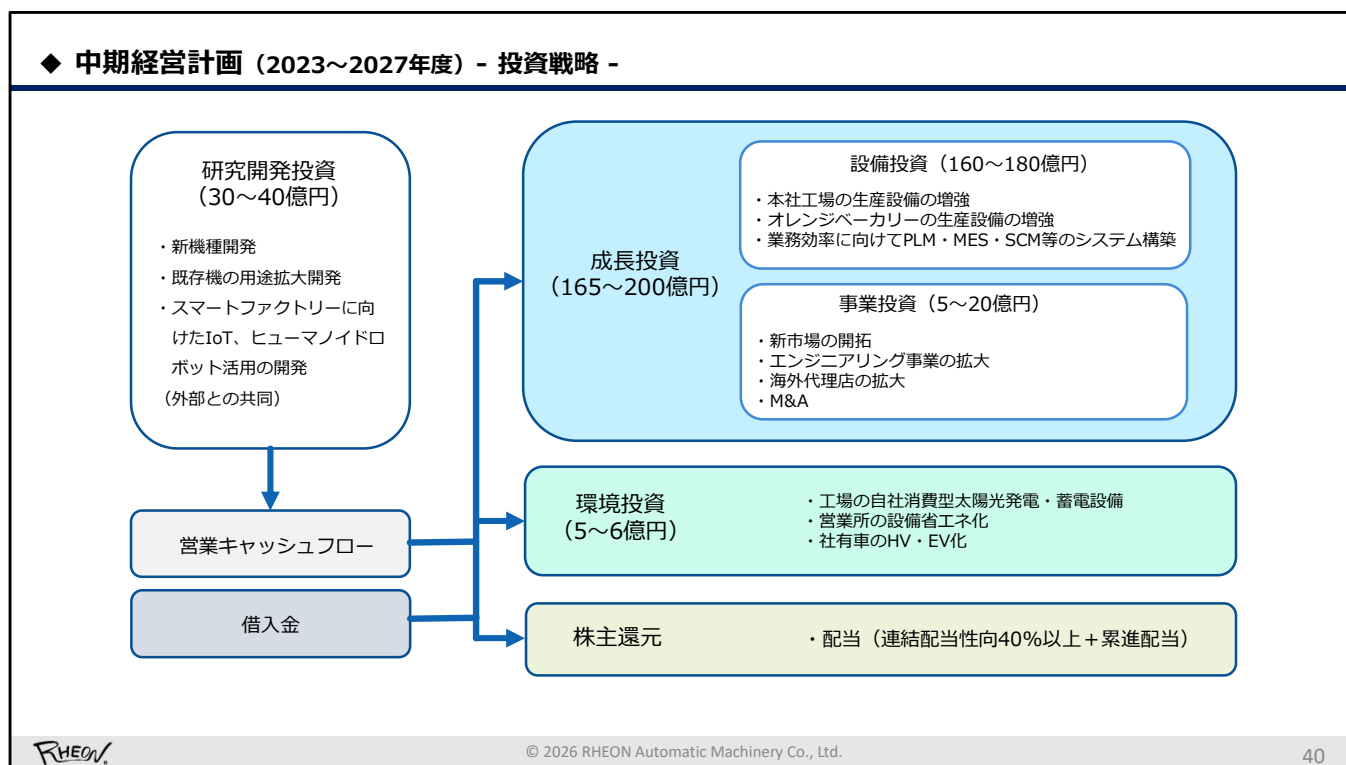
「設備投資」に45億4千万円、

「環境投資」に3千万円を投資いたしました。

今期に関しては、

主にオレンジベーカリー新工場や、

上河内工場のパレット自動倉庫などの設備投資を計上しております。



当 中期経営計画期間における投資計画をまとめました。

成長投資に200億円、環境投資に6億円を計画しております。

今後もオレンジベーカーリーへの投資を通じて

新機種の開発や、スマートファクトリーを目指した開発に

取り組んでまいります。

当社独自のハード・ソフトを開発していくことで、収益力を高め、

研究開発をより強化していくことで

企業価値・株主価値の増大を目指してまいります。

◆ レオグループのアイデンティティ

社 是

“ 存在理由のある企業たらん ”

- 自社製品を通じてお客様に満足を提供する
- 世界の食文化に貢献する

「存在理由のある企業たらん」は、
レオグループが創業以来持ち続けている社是です。
これまで、これからも、存在理由のある企業であり続けることが
レオグループの大切にしていることです。



最後になりますが、当社の理念は、
独自技術に基づく自社製品を通じて、食品業界のお役に立ち、
また世界の食文化に貢献することであり、
これが、当社の存在理由でもあります。

近年、食を取り巻く環境は大きく変化し、
食品業界では、食の安心・安全の確保をはじめ、
食品ロスなど多様化する課題に直面しております。
レオン自動機は、こうした お客様の課題解決に、
ともに取り組むパートナーとして、
永続的に「存在理由のある企業」であり続けるため、
社員一人ひとりが変革に挑戦してまいります。



《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© 2026 RHEON Automatic Machinery Co., Ltd.

引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、
今後とも、よろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。